

英語発音授業における大学生の学習ニーズと指導法への反応 リズム指導ストラテジー

著者	吉田 桂子
雑誌名	言語と文化
巻	26
ページ	39-55
発行年	2022-03-10
URL	http://doi.org/10.14990/00004174

英語発音授業における大学生の学習ニーズと指導法への反応 — リズム指導ストラテジー —

吉田 桂子

キーワード：英語発音授業、大学生、学習ニーズ、リズム、ストラテジー

はじめに

1. 英語発音授業における学習ニーズ・アナリシス：学習前の学生の意識調査
(目標、英語発音の自己分析、学習における優先項目)
 2. 学習ニーズに応えるための英語発音指導法：調査と実践
 3. 英語発音指導法に対する学生の反応：学習後の学生の意識調査
- おわりに

はじめに

吉田 (2021) は、大学の英語発音授業という枠組みの中で、学生の英語発音をどのように評価することができるのか、1. 目標設定と訓練・評価内容、2. 評価者、3. 評価方法に焦点を当て、先行研究をもとに考察した。1. の目標設定に関して、世界における英語の役割の変化、人々の移動の活発化、技術の革新に伴い、時代と共に変化・多様化していることがわかった。20世紀後半は英語母語話者の発音、20世紀末はEnglish as an International Language (EIL) の観点から、各自の変種にも注意を払いつつ、意思疎通ができる到着点となる発音 (伊原, 1989) というように、モデルに対する考えが変化していった。21世紀に入り、学習者の現在と未来の英語使用に近いモデルの検索・選択が技術的に可能になっている (峯松, 2011)。選択したモデルの発音に近づくために優先的に学習すべき項目は何であろうか。Jenkins (2000) は、English as a Lingua Franca (ELF) の視点から、ELFのコミュニケーションがintelligibleとなるために正確に発音されることが重要だと考えられる特徴を、lingua franca coreとして提唱している。国際的に英語が使用される場面においてintelligibilityに影響を及ぼす英語音声特徴をcore features、影響を及ぼさない特徴をnon-core featuresと分類し、明示している。峯松 (2011) が述べているように、学習者自身が様々なモデルを選択できるようになってきているとすれば、学習者自身による学習優先項目の選択にも目を向けたいと筆者は考えるようになった。

そこで、本研究では、大学の英語発音授業の履修者に適した指導を行うために、以下に

ついて調査する。実際に授業を履修している学生が、学習開始時点で、どのような場面での英語発音の向上を目指しているか、どのように自己の発音を分析しているか、どの学習項目を優先的に学びたいと考えているか。次に、学生が優先的に学びたいと考えている学習項目について、英語発音指導と指導者養成の分野で提唱されている指導法を調査し実践する。最後に学生が授業で体験した発音訓練・指導ストラテジーについてどのように考えているかを調査し、今後の授業における発音指導の向上を目指す。

1. 英語発音授業における学習ニーズ・アナリシス：学習前の学生の意識調査 (目標、英語発音の自己分析、学習における優先項目)

1.1. 目標

まずは、大学の英語発音授業を履修する学習者のニーズを把握するため、第1回目の授業で、学習開始時点における学習者自身の目標、英語発音の自己分析、学習における優先項目に関する意識調査を行った。筆者の担当する「中級英語Pronunciation」という科目では、教科書として*Well said: Pronunciation for clear communication* (Grant, 2017)を採用している。はじめに、学生一人ひとりの学習目標を知るため、PART I Introduction Chapter 1 Your Pronunciation Profileの学習目標に関する図1の問いを用いて調査した。23名の学生(2-4年生)が最も英語をはっきりと話したいと考える状況を3つ選び回答した。

Identifying Speaking Needs and Goals
EXERCISE 4A

In which situation do you want to speak clearly? Check✓the three most important.

- participating in casual conversation with native speakers
- participating in meetings or discussions at work or school
- asking and answering questions in the classroom
- talking on the telephone
- communication online, such as with FaceTime or Skype
- giving reports or presentations at work or school
- teaching at school (overseas)
- interacting in the community interaction (shopping, banking, etc.)
- using English for international business communication
- other: _____

図1 スピーキングのニーズと目標に関する学生の意識調査
(Grant (2017:4)を日本人学習者用に筆者が一部変更)

In which situation do you want to speak clearly?	Number of Responses
participating in casual conversation with native speakers	13
participating in meetings or discussions at work or school	10
asking and answering questions in the classroom	9
talking on the telephone	6
communication online, such as with FaceTime or Skype	4
giving reports or presentations at work or school	7
teaching at school (overseas)	1
interacting in the community interaction (shopping, banking, etc.)	8
using English for international business communication	9
other	2
total	69

表1 スピーキングのニーズと目標に関する学生の意識調査の結果
(図1を用いた調査の結果)

結果は表1が示すとおりである。1番多かったのは、英語母語話者とのカジュアルな会話であった。2、3番目に多い回答は、学校と仕事における活動に関するもので、現在と未来に直結する目標を選択している。4年生は、4人中3人が国際ビジネスコミュニケーションを選択しており、これは他の学年よりも多い割合で、学年が上がるにつれ、目標が変化していく可能性も考えられる。

1.2. 英語発音の自己分析

次に、学生が学習開始時点で自分自身の英語発音をどのように考えているかについて調査した。調査には、同じく教科書*Well said: Pronunciation for clear communication* (Grant, 2017) PART I Introduction Chapter 1 Your Pronunciation ProfileのReading Aloud taskの一部(図2)とSpontaneous Speech task(図3)を用いた。

<p>Reading Aloud task EXERCISE 1A</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Practice reading the following part of the passage in 1A (Pronunciation Learning). 2. Record your reading with your own device (Smartphone, PC, tablet, etc.). E.g. iPhone: Voice Memo; Android: Google Play>「ボイスレコーダー」をインストール 3. Name your sound file (mp3, mp4, m4a, etc.): “Your name + PL (Pronunciation Learning)”. E.g. file name: “Keiko Yoshida PL”.m4a <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">Pronunciation Learning</p> <p>Have you ever watched young children play with the sounds of the language they are learning? They imitate, repeat, and sing sound combinations without effort. For young children, learning to speak a new language seems automatic.</p> </div>

図2 英語発音の自己分析のための読み上げ・録音課題
(Grant (2017:2) を授業用に筆者が一部変更)

<p>Spontaneous Speech task EXERCISE 2A</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Select one discussion topic from the following. <ol style="list-style-type: none"> 1) What kind of work do you hope to do in the future? Why? 2) Describe the place where you grew up and an experience you had while growing up there. 3) Describe your first day in an English-speaking country. What continues to surprise or fascinate you the most about the country? 2. Speak informally for one to two minutes. Do not write or rehearse your answers. 3. Record your speaking. 4. Name your sound file: Your name + DT (Discussion Topic). E.g. file name: “Keiko Yoshida DT”.m4a 5. Send your sound file to My KONAN.

図3 英語発音の自己分析のための即興スピーチ・録音課題
(Grant (2017:3) を授業用に筆者が一部変更)

学生は、第1回目の授業課題として、図2と図3の2つのタスクにおける自身の発音を録音した後、録音された発音を繰り返し聴き、教科書内の表2のSpeech Profileを使用しながら自身の発音の詳細について評価し、分析した。Speech ProfileのFeatureには、教科書で学ぶ主な学習項目がリストされており、各項目が学習できる章が学習者にわかりやすくなっている。23名の学生が回答した。

各項目の平均評価点数は表3のとおりであった。各項目の平均評価点数に大きな偏りはな

Speech Profile

Feature	1 Little/No control	2 Some control	3 Good control	Difficulties (発音が難しいところを書いてみましょう)
Consonant Sounds (Chapter 3) 子音	1	2	3	
Vowel Sounds (Chapter 2) 母音	1	2	3	
Grammatical Endings (Chapter 4) 語末の文法 (-s, -es, -d, -ed など)	1	2	3	
Word Stress (Chapter 5, 6) 語強勢 (単語内のアクセント)	1	2	3	
Rhythm (Chapter 7) リズム	1	2	3	
Thought Groups (Chapter 8) 意味のまとまりごとに区切った発音	1	2	3	
Focus Words (Chapter 9) 意味的に強調する単語の強勢	1	2	3	
Final Intonation (Chapter 10) 文末のイントネーション	1	2	3	
Connected Speech (Chapter 11) 連続発音	1	2	3	
Consonant Clusters (Chapter 12) 子音連結	1	2	3	

表2 読み上げタスクと即興スピーチタスクにおける英語発音の自己分析に関する学生の意識調査
(Grant (2017:5)に筆者が日本語訳を補足)

く、ほとんどの項目で2.00点未満となった。2.00点以上であった唯一の項目は、「Grammatical Endings 語末の文法 (-s, -es, -d, -edなど)」であった。これは、これまでの文法学習が発音にも影響を及ぼしていると学生自身が考えているからかもしれない。2番目に平均点が高かったのは、「Word Stress 語強勢 (単語内のアクセント)」で、学生は語彙学習の際に強勢の位置も意識しながら学び、その知識を使いながら発音をしているという実感があるのかもしれない。一方、同じ強勢であっても、「Focus Words 意味的に強調する単語の強勢」となると、各単語の強勢位置だけでなく、文全体の意味も考える必要が出てくるのだが、その場合にはやや平均評価点数が下がった。しかし、この点数にはかなり個人差もあり、ばらつきが見られた。これまでの学習においてMessageとFormの学習の比重が学生によって異なっていた可能性が考えられる。また、子音と母音については、同程度のできであると考えていることが、平均評価点数からわかる。しかし、「Consonant Clusters 子音連結」や「Rhythm リズム」となると平均評価点数が下がり、特に「Rhythm リズム」に1点を付けた学生の数が13名と最も多かった。

Feature	Mean	Number of Responses
Consonant Sounds 子音 (Chapter 3)	1.78	23
Vowel Sounds 母音 (Chapter 2)	1.78	23
Grammatical Endings 語末の文法 (-s, -es, -d, -edなど) (Chapter 4)	2.13	23
Word Stress 語強勢 (単語内のアクセント) (Chapter 5, 6)	1.91	23
Rhythm リズム (Chapter 7)	1.52	23
Thought Groups 意味のまとまりごとに区切った発音 (Chapter 8)	1.74	23
Focus Words 意味的に強調する単語の強勢 (Chapter 9)	1.61	23
Final Intonation 文末のイントネーション (Chapter 10)	1.78	23
Connected Speech 連続発音 (Chapter 11)	1.61	23
Consonant Clusters 子音連結 (Chapter 12)	1.57	23

表3 読み上げタスクと即興スピーチタスクにおける英語発音の自己分析に関する学生の意識調査の結果
(図2, 3と表2を用いて調査した結果)

1.3. 学習における優先項目

1.2. では、学生はSpeech Profileを見ながら、英語発音の各項目に関して自己の発音を評価し、点数をつけた。今度は、同じ1.2. のReading Aloud task (図2) とSpontaneous Speech task (図3) において、学生自身がよくできたと考えている3つの項目と、今後の英語発音学習において優先的に学ぶ必要があると考えている3つの項目について調査した。図4のように、教科書の問題に日本語訳を補足して質問した。22名の学生が回答した。

Pronunciation Strengths: (よくできたとと思う点) 1. _____ 2. _____ 3. _____ Pronunciation Priorities: (優先的に練習が必要だと思う点) 1. _____ 2. _____ 3. _____

図4 よくできたとと思う項目と優先的に練習が必要だと思う項目に関する学生の意識調査 (Grant(2017:5)に筆者が日本語訳を補足)

よくできた項目に関する結果は、表4-1のとおりで、選択した学生が最も多かった項目は、1.2. でも評価が最も高かった「Grammatical Endings 語末の文法 (-s, -es, -d, -edなど)」と、1.2. ではそれほどでもなかった「Final Intonation 文末のイントネーション」であった。次いで多かったのは、1.2. でも評価が2番目に高かった「Word Stress 語強勢 (単語内のアクセント)」であった。

Feature	Number of Responses
Consonant Sounds 子音 (Chapter 3)	8
Vowel Sounds 母音 (Chapter 2)	6
Grammatical Endings 語末の文法 (-s, -es, -d, -edなど) (Chapter 4)	10
Word Stress 語強勢 (単語内のアクセント) (Chapter 5, 6)	9
Rhythm リズム (Chapter 7)	6
Thought Groups 意味のまとまりごとに区切った発音 (Chapter 8)	7
Focus Words 意味的に強調する単語の強勢 (Chapter 9)	3
Final Intonation 文末のイントネーション (Chapter 10)	10
Connected Speech 連続発音 (Chapter 11)	4
Consonant Clusters 子音連結 (Chapter 12)	3
Total	66

表4-1 よくできたとと思う項目に関する学生の意識調査の結果 (図4を用いて調査した結果)

次に、表4-2を用いて、優先的に練習が必要だと思う項目についての結果を考察する。こちらは全体で23名の学生が回答したが、その半数以上である14名の学生が、「Rhythm リズム」と回答している。また、1.2. でもやや評価点数の低かった「Connected Speech 連続発音」も学習における優先項目であると考えていることがわかった。

必ずしも1.2. の英語発音の自己分析による評価結果と、1.3. の学習における優先項目についての回答結果が一致しているわけではないことも興味深い。自分の発音の精度に関わらず身につけておくべき重要な項目であると考えていたり、ある程度はできてもさらに精

Feature	Number of Responses
Consonant Sounds 子音 (Chapter 3)	4
Vowel Sounds 母音 (Chapter 2)	5
Grammatical Endings 語末の文法 (-s, -es, -d, -edなど) (Chapter 4)	2
Word Stress 語強勢(単語内のアクセント) (Chapter 5, 6)	7
Rhythm リズム (Chapter 7)	14
Thought Groups 意味のまとまりごとに区切った発音 (Chapter 8)	7
Focus Words 意味的に強調する単語の強勢 (Chapter 9)	8
Final Intonation 文末のイントネーション (Chapter 10)	6
Connected Speech 連続発音 (Chapter 11)	12
Consonant Clusters 子音連結 (Chapter 12)	4
Total	69

表4-2 優先的に練習が必要だと思う項目に関する学生の意識調査の結果
(図4を用いて調査した結果)

度を上げたいと考えている項目が優先項目として選択されているのかもしれない。

ここで注目したいのは、1.2. 英語発音の自己分析に関する調査と、1.3. 学習における優先項目に関する調査において、共通して見られた結果で、「Rhythm リズム」についての回答である。「Rhythm リズム」は、1.2. の自己分析における平均評価点数が最も低い項目であり、1.3. の学習における優先項目として突出して最も多くの学生が選んだ項目である。この結果は、授業における学習・指導の優先順位や指導法を考える上で、非常に重要な示唆を与えてくれた。この結果を受け、今年度の授業では、「Rhythm リズム」学習に最も多くの時間を使い、さまざまな指導法を用いて訓練をする計画を立て、実行した。次のセクションでその指導法について述べる。

2. 学習ニーズに応えるための英語発音指導法：調査と実践

1. 英語発音授業における学習ニーズ・アナリシス：学習前の学生の意識調査より、学生は英語のリズムを発音の際にうまく表現できておらず、リズムを今後優先的に学ぶ項目だと捉えていることがわかった。そこで、そのニーズに応えるため、ここではリズムの効果的な指導法について調査し、授業において実践した。

『日本語ネイティブが苦手な英語の音とリズムの作り方がいちばんよくわかる発音の教科書』（静, 2019）は、第5章「文のリズムまで本格的に英語らしく」で、英語のリズムの関連要素として、単語のリズム、ストレス、フォーカス、センスグループ、フォーカスを置かない人称代名詞、句動詞、前置詞+動詞、複合語のアクセント、強勢リズム、内容語のダウングレード現象、品詞における発音の変化、を挙げて解説し、各要素を意識してトレーニングする方法を呈示している。

また、2021年8月に開催されたVirtual Summer Course in English Phonetics¹においても、5日間のコースの中で、リズムを1つの大きな項目として指導・学習するというよりは、例えば母音の長さについて学ぶ講義の中で、リズムを保つため、強勢が置かれる2つの単語の

¹ University College London Division of Psychology and Language Sciencesが運営する講義。EFLの教員や学生が、音声学の理論や英語発音についての講義を受け、指導法についても学ぶ。

間の母音は時間の調整のために短くなる*rhythmic clipping*という現象が起きる、というように、母音長がリズム関連要素として短く紹介されていた。

このようにリズムというのは多くの要素から成り立っており、まずはそれぞれの要素について学ぶ必要がある。それらを十分に理解した上で、要素ごとに訓練し、最終的に全体をリズムとして表現する。つまり、リズムはいくつかの訓練段階を要する学習項目であると言える。このことが、1.の学習前の学生の意識調査結果が示すリズムに対する学生の意識や、静 (2019) の本のタイトルが示す日本語ネイティブ話者のリズムに対する意識を生み出しているのかもしれない。

この段階的な英語リズム学習の必要性と、筆者が担当する「中級英語Pronunciation」の「国際的なコミュニケーションにおけるはっきりとした伝わる英語発音の習得」という目標の両方を満たす指導法について調査した。調査の結果、Celce-Murcia et al. (1996, 2010) が *communicative framework* を用いて5段階で指導するカリキュラムを提唱していることが判明した。各段階における指導内容は以下のとおりである。

Communicative framework

Phase 1. Description and analysis

Phase 2. Listening discrimination

Phase 3. Controlled practice

Phase 4. Guided practice

Phase 5. Communicative practice

Phase 1. では、各リズム関連要素を意識すること、また話者による各要素の選択が実際の会話に及ぼす影響について指導する。Phase 2. は主にリスニングの訓練で、分節音の弁別、単語内の音節数と強勢のある音節の確認、連結発音における子音 - 母音の連結の識別などの訓練をする。Phase 3. は、特定の要素と精度に焦点を当てたアウトプット指導である。学生がペアワークやグループワークで発した音声に対し教員がフィードバックを与えたり、学生同士で確認する。読み上げ用文章、*jazz chants*、早口言葉、*child's rhymes*などを用いる。Phase 4. では、特定のリズム関連要素に加え、意味にも焦点を当て、文脈や言語情報を活用しながら自分の考えなどを述べる訓練を行う。空所補充問題や*cued dialogue*などを用いる。Phase 5. では、各要素に関する知識を自動化でき、精度と内容に注意を払えることを目指す。ロールプレイや問題解決課題などの訓練を行う。

具体的なリズムの指導については、Haasch (2016) が、Celce-Murcia et al. (1996, 2010) の5段階を踏まえた指導に用いる11の*strategies*を紹介している。本セクションでは、Haasch (2016) の11*strategies*に基づいて日本の大学生を対象として授業で行った発音指導の実践について報告する。教科書*Well said: Pronunciation for clear communication* (Grant, 2017) の練習問題とHaasch (2016) の提唱する*strategies*の内容が重複している場合 (Strategy 1. と4. と8.) は、教科書の練習問題を使用した。具体的な教材例が示されていない場合 (Strategy 8.

と9.)は、筆者が選択して使用した。必要な場合 (Strategy 7.など) は、日本語訳や説明文を補足した。以下にstrategiesを用いた具体的な英語リズムの指導を簡単に述べる。

Strategy 1. では、語強勢に関する規則を学ぶ。規則に従って発音しながら、ペアワークで下線部の語強勢の位置に例のように○を記入する。クラス全体で強勢の位置を確認する。

Strategy 1. Teach accurate word stress when introducing vocabulary (Field, 2005).
(Phase 1. Description and analysis)

Case 1

Sunday, August 14, between midnight and 6:30 a.m.; somebody broke in your Honda Civic; smashed out a window; stole your laptop, GPS, and checkbook - all were in the glove compartment; the car was parked on campus in lot B-18.

“Pronunciation Log Stress in Nouns, Verbs, and Numbers” by Linda Grant, 2017, *Well Said: Pronunciation for Clear Communication*, pg. 50, Copyright 2017 by National Geographic Learning and Cengage Learning.

Strategy 2. では、学生は文章を見ずに教員が読み上げる文章を聞き、聞き取りやすかった語のみを書き取る。ペアワークで、聞き取った語を用いて、聞いた文章と同じ内容になるようメッセージを組み立てる。書き取った語に強勢を置いてリズムをとり発音する。

Strategy 2. Teacher script for stressed-words exercise (Celce-Murcia et al., 2010).
(Phase 2. Listening discrimination)

What Flight Attendants Want You to Know

It is strictly forbidden to do any of the following things while on board the airplane: no smoking inside the cabin or restrooms, no use of electronic devices during takeoff or landing, and no blocking the aisles during meal services.

“Teacher script for stressed-words exercise” by Celce-Murcia et al., 2010, *Teaching Pronunciation: A Course Book and Reference Guide*, pg. 374, Copyright 2010 by Cambridge University Press.

Words easily caught
(聞き取りやすかった単語)

Reconstruct sentence by using those words above
(聞き取りやすかった単語を使ってメッセージを組み立てる)

Strategy 3. は、弱く発音される機能語を空所に補充し、ペアで答えを確認して弱勢を意識しながら発音を練習する。

Strategy 3. Cloze dictation (Celce-Murcia et al., 2010).

(Phase 2. Listening discrimination and Phase 3. Controlled practice)

Fill in the blanks with unstressed function words (弱い機能語: 前置詞、助動詞、冠詞など)

California Drivers
 Directions: Read through the following dialogue. Try to predict the word that is missing in each blank. Then listen and check your answers.

A: How did you come into work today, then?
 B: I drove.
 A: What were _____ roads like?
 1

B: Oh, terrible. You know what California drivers _____ like when it's raining.
 I saw three accidents _____ the way here. _____
 3 2

A: Three accidents? Was this _____ the freeway _____ the city streets?
 4 5

B: On the freeway.
 A: Was anybody hurt, _____ you think?
 6

B: Oh, I don't think so. The accidents were all sorts _____ fender-benders!
 7

“Exercise on listening for unstressed words” by Celce-Murcia et al., 2010, *Teaching Pronunciation: A Course Book and Reference Guide*, pg. 377, Copyright 2010 by Cambridge University Press.

Strategy 4. では、ペアワークでchild's rhymeをbeatごとに机をタップしながらリズムをとって発音する。beat数を確認し発音の練習をする。

Strategy 4. Frequent and sustained choral repetition with body movement (Celce-Murcia et al., 2010).

(Phase 3. Controlled practice)

EXERCISE 3 beatの数を数えてみましょう。声に出して言ってみましょう。

Mary, Mary 2
 Quite contrary —
 How does your garden grow? —
 With silver bells —
 And cockle shells —
 And pretty maids all in a row. —

“Pronunciation Log Stress in Nouns, Verbs, and Numbers” by Linda Grant, 2017, *Well Said: Pronunciation for Clear Communication*, pg. 60, Copyright 2017 by National Geographic Learning and Cengage Learning.

Strategy 5-1. では、さまざまなbeat数が出現するStrategy 4. とは異なり、同じbeat数の中に徐々に単語を加えていき、語数が増えてもbeatの数と間隔を保ってリズムをとり発音する練習を行う。リズムを保つための、might have beenなどにおける連結発音も学ぶ。

Strategy 5-1. Rhythm drills/congruent rhythm drills (Celce-Murcia et al., 2010).

(Phase 3. Controlled practice)

	O		O	O
	MICE		EAT	CHEESE.
The	MICE		EAT	CHEESE.
The	MICE	will	EAT	the CHEESE.
The	MICE	will have	EATen	the CHEESE.
The	MICE	might have been	EATing	the CHEESE.

“‘Mice eat cheese’ rhythm drill” by Celce-Murcia et al., 2010, *Teaching Pronunciation: A Course Book and Reference Guide*, pg. 215, Copyright 2010 by Cambridge University Press.

Strategy 5-2. では、さまざまな構造の文を用いて、典型的な英語のリズムを意識しながら発音の練習をする。

Strategy 5-2. Rhythm drills/congruent rhythm drills (Celce-Murcia et al., 2010).
(Phase 3. Controlled practice)

. o . o . O .	. o . . o . . O
She doesn't like to hurry.	He wanted to help her forget.
Her father cleaned the basement.	We needed to call them at ten.
I didn't want to leave her.	It's better to hide it from John.
He hasn't even tried it.	I wonder who's kissing her now.
They need some new pajamas.	I think that he's doing it wrong.
<p>“Congruent rhythm drills” by Celce-Murcia et al., 2010, <i>Teaching Pronunciation: A Course Book and Reference Guide</i>, pg. 215, Copyright 2010 by Cambridge University Press.</p>	

Strategy 6. では、リズムには音の長さも関わっていることを学び、意味も考えながら、focus wordはやや長く発音し、リズムをとりながら会話する練習をする。

Strategy 6. Identifying content words and practice speaking using rhythm (Grant, 2007).
(Phase 3. Controlled practice)

Task: Listen to the following dialogue. Then, with a partner, practice it. Focus on making the stressed syllables longer and stronger than the unstressed syllables.						
Jane:	-----	•	-----	•	-----	•
	Jake,	your	phone's	ringing.		
Jake:	•	•	•	•	•	•
	It is?	Are	you	sure?		
Jane:	-----	•	-----	•	-----	•
	Don't	you	hear	it?	Answer	it.
Jake:	-----	•	-----	•	-----	•
	That's	not	my	phone.	It's	yours.
Jane:	-----	•	-----	•	-----	•
	Oh,	you're	right.			Sorry!
<p>“Dialogue for rhythm practice” by Celce-Murcia et al., 2010, <i>Teaching Pronunciation: A Course Book and Reference Guide</i>, pg. 216, Copyright 2010 by Cambridge University Press.</p>						

Strategy 7. では、会話において強勢が置かれるのは、最も意味をもつ動詞や名詞などの内容語であることを学ぶ。個人的な情報の伝達の場面で内容語に強勢を置く発音練習を行う。

Strategy 7. Guided dialogue (Celce-Murcia et al., 2010).
(Phase 3. Controlled practice)

A: WHAT do you DO?
B: I'm a DOCTOR, / and I WORK in a HOSPITAL.
B: WHAT do YOU DO? (addressing C)
C: I'm a PROFESSOR, / and I LECTURE at the UNIVERSITY.
<p>“Guided practice” by Celce-Murcia et al., 2010, <i>Teaching Pronunciation: A Course Book and Reference Guide</i>, pg. 216, Copyright 2010 by Cambridge University Press.</p>

Strategy 8. では、ペアワークにおいて、イベントの詳細についてお互いに知らない情報を尋ね・教えあう問題解決課題を行う。教科書にはStress in Nouns, Verbs, and Numbersのセ

クションにこの課題があり、その部分を採用した。問題解決の状況でもリズムをとって話す練習をする。

Strategy 8. Information gap (Millin, 2015).
(Phase 4. Guided practice)

EXERCISE 3A: Student A, ask questions about the conference. Student B, answer them. Then take turns.

DESIGNING NEW PRODUCTS and TECHNOLOGY

November 14

1:30 Keynote: Dr. Paul Wood, pioneer in human-computer interaction
“Information Security vs. Usability and Simplicity”

2:30 Workshops
1. Conduction Usability Testing with Older Adults
2. Web Accessibility for Users with a Disability
3. Democratic Elections and Electronic Voting Machines

5:30 Reception

“Pronunciation Log Stress in Nouns, Verbs, and Numbers” by Linda Grant, 2017, *Well Said: Pronunciation for Clear Communication*, pg. 58, Copyright 2017 by National Geographic Learning and Cengage Learning.

Strategy 9. では、ドラマのセリフを繰り返し聴き、次にセリフのシャドーイングをしながら会話における自然なリズムを体感し、真似をしながらリズムを習得する。

Strategy 9. Mirroring a dramatic scene (Celce-Murcia et al., 2010).
(Phase 4. Guided practice)

FRIENDS I <First Season> Set 1 DVD [ワーナー・ホーム・ビデオ]

Strategy 10. では、設定された場面のみが与えられており、学生はその状況にあう会話をペアワークで考えて話す練習をする。会話において状況が刻々と変化の中で、新情報や強調する条件などのfocus wordに強勢をおいて話す練習をする。

Strategy 10. Cued dialogue (Celce-Murcia et al., 2010).
(Phase 4. Guided practice)

Directions: You and a partner are representatives of Beck Instruments and Ojanpera Inc., a machine-tool maker. Ojanpera is in discussion with Beck Instruments to buy a machine, the B125. Use the flow chart below to negotiate some aspects of an agreement for the sale of the B125.

Ojanpera	Beck Instruments
Offer to buy the machine if BI can give you a good price.	Say that your prices are very competitive.
Ask for a discount.	Say a discount could be possible if Ojanpera agrees to pay for shipping costs.
Agree, if the discount is attractive.	Offer 4 % discount.
Ask for 6%.	Unfortunately, you can't agree, unless Ojanpera pays for the installation.
Agree.	Confirm your agreement.

“Cued dialogue: Negotiating a good price” adapted from Sweeney 2000a, p. 136 as cited in Celce-Murcia et al., 2010, *Teaching Pronunciation: A Course Book and Reference Guide*, pg. 291, Copyright 2010 by Cambridge University Press.

Strategy 11. では、トークショーなどの場面が設定されており、ペアワークで司会者とゲストといった役割を演じながら例文を用いて会話する。新旧情報、内容語などのfocus wordへの強勢、リズムの取り方を練習し、教員からフィードバックを得る。

Strategy 11. Role play (Celce-Murcia et al., 2010).

(Phase 5. Communicative practice)

1. You are the world record holder for walking on your hands – 36 hours!

2. You are winner of the world KISSING marathon.
Winning time: 32 hours, 18 minutes

3. You are the first person to cross the Pacific Ocean in a hot air balloon.

“Rhythm and stress practice: Late-night talk show format” by Celce-Murcia et al., 2010, *Teaching Pronunciation: A Course Book and Reference Guide*, pg. 217, Copyright 2010 by Cambridge University Press.

As the talk-show host, the partner interviews the guest and takes notes on answer to questions, such as the following (Celce-Murcia et al., 2010, p. 217):

What is your name?

What did you do?

What record did you break?

When did you do this?

Where did you do this?

Why did you do this?

上記11のstrategiesを用いた発音指導への反応について、次のセクションで学生の意識調査を用いて検証する。

3. 英語発音指導法に対する学生の反応：学習後の学生の意識調査

ここでは、2. 学習ニーズに応えるための英語発音指導法：調査と実践において採用した11のstrategiesについて、学生の反応を調査した。調査に用いた質問は以下のとおりである。

<p>Rhythmを習得するのに効果的だと思ふ順に3つのStrategyに○を入れ、理由を答えて下さい。 Strategy (1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11) 理由： _____</p> <p>Strategy (1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11) 理由： _____</p> <p>Strategy (1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11) 理由： _____</p> <p>Rhythmを習得するのにあまり効果的でないと思ふ順に2つのStrategyに○を入れ、理由を答えてください。 Strategy (1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11) 理由： _____</p> <p>Strategy (1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11) 理由： _____</p>

図5 効果的だと思ふstrategiesに関する学生の意識調査

21名の学生が回答した結果を見ていく。表5-1の上段は、各strategyを効果的だと答えた回答総数、下段は、効果的だとされた順位による得点を表している。いずれの場合も

	Strategy										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
「効果的だと思う」回答総数 (1番目、2番目、3番目に効果的だと回答した数の合計)	8	6	6	6	14	8	3	0	11	1	0
「効果的だと思う」順位による得点 (1番目として回答 3点 2番目として回答 2点 3番目として回答 1点 とした場合の合計点数)	16	14	13	10	33	11	5	0	23	1	0

表5-1 効果的だと思うstrategiesに関する学生の意識調査の結果
(図5を用いて調査した結果)

Strategy 5. *Rhythm drills/congruent rhythm drills*、Strategy 9. *Mirroring a dramatic scene*、Strategy 1. *Teach accurate word stress when introducing vocabulary*の順に効果的であると考えていることがわかった。Strategy 5. を選んだ理由としては、「短文でリズムがとりやすい」「強く言うところと弱く速く言うところがわかりやすく意識しやすい」「強弱を考えなくてもbeatで数えることで気持ちよく自分でリズムをとって言いやすい」「一定のリズムの間に単語を入れる練習が楽しくできた」「助動詞の部分のリズム感やテンポがわかったので良かった」「文が長くなっても、意味を通すポイントをつかむ練習ができていような気がして効果的に感じた」といった意見があった。短文の練習からはじまり、徐々に長文になっていくことや、強弱だけでなくbeatという概念が加わることで、リズムを身につけやすくなっていることを実感しているようだ。また、練習中に文法知識や意味とbeatの結びつきを発見し、ポイントをつかんで今後の応用につなげていこうと考えていることが興味深い。Strategy 9. を選んだ理由としては、「実際に話すスピードの中で強弱や緩急をつける練習は最も効果的」「ネイティブの発音の後に続いてシャドーイングすると発音の仕方をわかりやすく学べる」「発音のお手本があり、なりきることで楽しく体にリズムが記憶される」「演技を聞いて真似すると練習しやすく一番身につくそう」「リズムをとることで感情が表現される」「実際に時々この方法で練習をしていて効果を感じる」という点が挙げられた。会話のスピード、ネイティブの発音の仕方、という言語面だけでなく、感情表現の習得、練習のしやすさなども、リズム学習の効果を促す重要な要素であることが学生の回答からわかった。Strategy 1. を選んだ理由として、「多くの強勢ルールを一度に学ぶことができる」「強勢で意味が変わるので大切」「名詞や複合語の強勢がいまいちわかっていなかったので知ることができた」「リズムの基本の段階で、次につながる」「部分的な強弱がわかり意識すると、自然とリズム良く発音できる」「自分で簡単に練習ができる」といった回答があった。語強勢がリズムの基本であり意味伝達・理解にも直結していることや、練習のしやすさに気づいていることもわかった。

表5-2の上段は、各strategyをあまり効果的だと思わないと答えた回答総数、下段は、あまり効果的だと思わないとされた順位による得点を表している。いずれの場合もStrategy10. *Cued dialogue*、Strategy 7. *Guided dialogue*、の順にあまり効果的だと思わないと

考えていることがわかった。Strategy 10. の理由として、「会話文を考える方に集中する」「時間が足りずリズム練習に至らない」「語彙や文法を考えるため、リズムよく話す練習にならない」「リズムに慣れる前にはまだ少し早い練習法だと感じる」という回答を得た。場面設定があっても会話文作成の負荷が高く、リズムの練習の実感が得られないということだろう。Strategy 7. の理由としては、「ガイドは必要ないのではないか」「簡単でわかりやすいがリズムが身につく感じがしない」「文章を考えるのに集中する」「リズムと関係があるのかわからない」という意見があった。リズム関連の新たな規則や概念を学んでいるとは感じられないということだろう。

	Strategy										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
「あまり効果的でないと思う」回答総数 (1番目、2番目にあまり効果的でないと思うと回答した数の合計)	1	3	5	4	0	1	7	2	0	13	6
「あまり効果的でないと思う」順 (1番目として回答 3点 2番目として回答 2点 とした場合の合計点数)	2	6	7	6	0	1	12	2	0	19	8

表5-2 あまり効果的だと思わないstrategiesに関する学生の意識調査の結果
(図5を用いて調査した結果)

その一方で、わずかながら、Strategy 10. *Cued dialogue*について「自分で文を作りながら自然と発音する練習ができる機会がよい」、Strategy 7. *Guided dialogue*について「考えながら英語を発音でき実践的で良い」とする意見もあった。前者は英語圏に滞在経験のある学生の意見である。このように多様な学生が履修していることを考えると、やはり異なる段階・難易度のさまざまな内容を含むstrategiesで学ぶ機会を提供し、自分の習熟度に適したstrategiesを自律的に選択することも同時に学んでもらえたら良いのではないかと考える。

おわりに

本研究では、大学の授業で学生の英語発音を効果的に向上させるため、1. 英語発音授業における学習ニーズ・アナリシス：学習前の学生の意識調査を行った。その結果、「中級英語Pronunciation」の履修者の中には、自分の英語発音におけるリズムを他の発音項目よりも低く評価し、リズムを優先的に学ぶ項目として考えている学生が多くいることがわかった。この結果を受け、授業で学習項目としてリズムを優先的に取り上げ、2. 学習ニーズに応えるための英語発音指導法：調査と実践において、リズムの効果的な指導法について調査し、実践した。さまざまな要素と関連するリズムを、丁寧に段階的にcommunicative frameworkの中で学ぶことができるHaasch (2016) の11 strategiesを採用し、授業で実践できるように部分的に変更や補足をしながら発音指導を行った。3. 英語発音指導法に対する学

生の反応：学習後の学生の意識調査において、11 strategiesのうち、学生が効果的であると思うstrategiesと、あまり効果的でないと思うstrategiesについて、理由も合わせて調査・検証した。規則や概念がわかりやすく、それらを活用すると自然にリズムがとりやすくなるstrategiesや、今後に応用できそうなstrategies、また練習のしやすいstrategiesを効果的であると考えていることがわかった。一方、リズム以外の要素が多く関わるstrategiesやリズムとの関連がわかりにくいstrategiesはあまり効果的ではないと捉えられていることも判明した。今回は授業の履修者である大学2年生から4年生を対象とし、リズム指導の実践とその効果に対する学生の意識調査を行った。今後はより多くの学生を対象としながら、リズム以外の発音学習項目についても指導法を調査・実践し、訓練・指導法の効果について、学生の反応を調査したい。また、訓練前後の学生の発音を比較し、特定の発音項目の変化について分析しながら、訓練・指導の効果について調査することも検討したい。

参考文献

- Celce-Murcia, M., Brinton, D. M., & Goodwin, J. M. (1996). *Teaching pronunciation: A reference for teachers of English to speakers of other languages*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Celce-Murcia, M., Brinton, D. M., Goodwin, J. M. (with Griner, B.) (2010). *Teaching pronunciation: A course book and reference guide* (2nd ed.). New York: Cambridge University Press.
- Field, J. (2005). Intelligibility and the listener: The role of lexical stress. *TESOL Quarterly*, 39, (No. 3), 399-421.
- Grant, L. (2007). *Well said intro: Pronunciation for clear communication* (1st ed.). Boston, MA: Heinle & Heinle.
- Grant, L. (2017). *Well said: Pronunciation for clear communication* (4th ed.). Boston, MA: National Geographic Learning.
- Haasch, A.L.R. (2016). Teaching English rhythm: The importance of rhythm and strategies to effectively incorporate rhythm practice within content lessons. *School of Education Student Capstone Theses and Dissertations*. 4247.
<https://digitalcommons.hamline.edu/hse_all/4247> (最終アクセス：2021年12月15日)
- Jenkins, J. (2000). *The phonology of English as an international language*. Oxford, UK: Oxford University Press.
- Millin, S. (2015, February 15). *How to set up an information gap*. Sandy Millin.
<<https://sandymillin.wordpress.com/2015/02/15/how-to-set-up-an-information-gap/>>
(最終アクセス：2021年12月20日)
- 伊原巧 (1989) 「Smithの「国際語としての英語」の思想について」、『長野大学紀要』第11巻、第1号、75-92.

- 峯松信明（2011）「グローバル時代における英語発音とその科学的な分析方法」、『大学英語教育学会関東支部学会誌』第7号、5-14.
- 静哲人（2019）『日本語ネイティブが苦手な英語の音とリズムの作り方がいちばんよくわかる発音の教科書』テイエス企画.
- 吉田桂子（2021）「英語授業における発音評価」、『言語と文化』第25号、63-78.

University Students' Learning Needs and Responses to Teaching Strategies in English Pronunciation Classes: Rhythm Instruction Strategies

Keiko YOSHIDA

Keywords: English Pronunciation Classes, University Students, Learning Needs, Rhythm, Strategies

Abstract

In order to provide appropriate instruction for students taking university English pronunciation classes, this study first conducted a needs analysis. It investigated how students analyzed their own pronunciation and which pronunciation features they thought they needed to practice the most in class. The pronunciation feature that received the lowest average self-assessment score and that the students wanted to learn the most was rhythm. Next, the teaching strategies for rhythm proposed in the fields of English pronunciation instruction and teacher training were investigated and practiced. Finally, the author surveyed what students thought about those strategies they experienced in class, with the aim of improving pronunciation instruction in future classes.

